

TOKYO HEADLINE SPECIAL EDITION

スケボーのまち まつばら

HEADLINE

澤井宏文松原市長インタビュー

“スケボーのまち まつばら”を通じて松原市ににぎわいを創っていききたい

スケボー西矢栞選手
連載コラム 「笑顔で楽しく。」

NO.01



“スケボーのまち まつばら”を通じて 松原市ににぎわいを創っていききたい

大阪府の中心に位置し、古くから交通の要衝として栄えた松原市。その松原市は今「スケボーのまち まつばら」を掲げたまちづくりに入れ、今年度新たなスケートボード施設「おくさま印スケボーパーク」が誕生した。松原市の澤井宏文市長に、スケートボードを通したまちづくりで目指すものを聞いた。

松原市が「スケボーのまち まつばら」として情報発信しようと考えたきっかけは？「松原市はもともと文化や芸術はもちろんですが、野球、バレーボール、ラグビー、サッカー、格闘技などさまざまなスポーツ分野で全国的、世界的に活躍する多くの選手を輩出し、“スポーツのまち松原”としての発信に力を入れていました。

そうした中で東京2020オリンピック競技大会において、スケートボードが初めて正式種目として採用され、松原市出身の西矢栞（もみじ）選手が女子ストリートで日本史上最年少の13歳330日で金メダルに輝きました。ありがたいことに地元である松原市にも脚光が当たりまして、この機会にスケートボードを通じてさらなるスポーツのまちとしての認知度を高めたいとの思いから、“スケボーのまち まつばら”という発信にも力を入れていくことになりました」

昨年はスポーツを活用した総合的なまちづくりを実施する自治体を応援するスポーツ庁主催の「スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰（スポまち!長官表彰）」



2022」を受賞するなど、その取り組みは全国から注目を集めています。

「市の取り組みが評価されたことは大変うれしく思っています。

例えば松原市では『松原がんばる市民応援金』として、スポーツ・芸術・文化等の分野において特に顕著な成績を収め、将来にわたり活躍が期待される方々に独自の応援金を交付しています。

市長として子どもたちが全国大会に出場する等の報告を受け一方で、同時に遠征費用等を負担するのは厳しいという保護者からの声も聞いていたので、それならば市を挙げて応援したいと考えて創設したものです。

西矢選手をはじめ、応援金を交付した選手たちが全国や世界で活躍する姿を見てきま

したので、長官表彰を受けられたことは本当に喜ばしく、市民にとっても励みになると思っています」

「スケボーのまち まつばら」を通して今後成し遂げたい目標はありますか。

「スケボーのまち まつばら」をきっかけに松原市を知っていただき、若い世代の交流人口や関係人口を創出、拡大することによって、いずれは若者が住みたくなるまちづくりにつなげていきたいと考えています。

2015年にスケートボードパークとフットサルコートを備えた施設「スポーツパークまつばら」をオープンしたのですが、おかげさまで市民だけでなく、近隣エリアや他府県からも多くの方が遊びや練習に来てくださっています。



【昨年度の主な取り組み】スケートボードパークを核としたまちづくり事業

「スケートボードパークを核としたまちづくり事業」がスポーツ庁主催の「スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰2022」を受賞

官民連携の協議会である「スケボーのまち まつばら」推進協議会設立（推進協議会における意見交換を踏まえて、目指す姿とアクションプランを設定）

新たなスケートボード場建設に伴うガバメントクラウドファンディングの実施（寄付合計金額：5,350,847円）

スケボーパークまつばらオープニングセレモニー
「スケボーのまち・まつばら FIRST RIDE」開催（令和5年3月26日）



澤井宏文（さわい・ひろふみ）昭和46年5月1日松原市生まれ。摂南大学経営情報学部卒業後、民間企業を経て代議士秘書へ。平成10年9月、松原市議会議員選挙で初当選（以降3期連続当選）。平成19年8月、歴代最年少で第60代議長に就任。平成21年5月、松原市長選挙で初当選。令和3年5月、松原市長選挙で再選（現在4期目）。令和5年6月、2025日本国際博覧会とともに、地域の未来社会を創生する首長連合会長に就任。

松原市に親しみを持つ方が増えるのはうれしいこと

さらなる飛躍を目指し、今年4月には市内で2カ所目のスケートボード施設『おくさま印スケボーパーク』もオープンしました。

また、松原市にある阪南大学のスピードスケート部は、オリンピックや世界で活躍する選手を多数輩出しているのですが、そうした選手たちも4年間は松原市に住みながら頑張ってくれています。スポーツを通して松原市に親しみを持ってくださる方が増えていくのはうれしいことですし、選手たちが育っていけば、今度は次の世代のアスリートや子どもたちを応援してくれる存在になるのかなと期待しています」

澤井市長から見たスケートボードの魅力とは？

「単純にすごく格好いいですね（笑）。スケートボードのトリック（技）を見たら、誰でも

“すごいな”と感じられます。トリックごとに難易度が決まっていて、難しいほど得点が高く、45秒の中でいかに高い点数を出すかを競い合うというルールも分かりやすく見やすいと思います。

アーバンスポーツですから、ファッションがおしゃれなところも魅力ですよ」

「スケボーのまち まつばら」の実現に向け、これからどのようなことが必要ですか。

「やはりスケートボードを通じてまちににぎわいを創っていくことが重要だと考えます。そのためにはスケートボード大会や関連イベントなど、多くの方が松原市を訪れてにぎわいをもたらす仕掛けづくりと、まちの魅力を積極的に発信することでブランディングを行い、松原市を知って興味や関心を持っていただくことも大切です。

西矢選手というスター選手はいるものの、スケートボードはまだ競技人口が少ないスポーツです。競技人口を増やす、あるいはトップアスリートを育成できるような環境を市を挙げて創っていきたいですね。にぎわいの創出に産業の活性化が加われば、“スケボーのまち”にふさわしい場所になっていくのではないのでしょうか」

スケートボードに関心のない市民に対し、どのように働きかけていきますか。

「誰にでも参加できるスポーツ体験のひとつが“見る”“応援する”ことです。スケートボードが盛り上がってくると、1回は見てみようかなとか、応援したいなという気持ちが生まれますよね。まずはそこから“やってみたい”につながる取り組みを考えていきたいです。

お子さんやお孫さんにやらせたいという方も、大会やイベントをきっかけに松原市を訪れて、観光や食事をしたいという方もいらっしゃるでしょう。いろんな楽しみ方があるので、市民それぞれが楽しめるような企画を準備したいと思います。

松原市はおおよそ4km四方の平坦な土地に布忍（ぬのせ）神社の恋みくじや日本最古の官道といわれる竹内街道、河内大塚山古墳などの観光スポットがあります。おいしい食べ物もたくさんありますからね」

澤井市長から市民へのメッセージをお願いします。

「松原市は今、スケートボードやスポーツを通じてまちを盛り上げよう、にぎわいを創ろうと取り組んでいます。2024年のパリオリンピックに向けて頑張る西矢選手をはじめ、選手のことは市を挙げて応援しますし、市民の皆さんにもぜひ応援していただければと思います。アスリートを目指す子どもたちには、家族や支えてくれる人に感謝の気持ちを持って頑張ってほしいです」

（TOKYO HEADLINE・後藤花絵）

室伏広治スポーツ庁長官からのコメント

松原市が、スケートボードによるまちづくりを進め、「スケボーのまち」を目指すとりくみにつきましては、スポーツ庁においても、昨年11月に開催した式典「スポまち!長官表彰2022」において、全国の自治体が模範とすべき「スポーツ・まちづくり」に関わる優良なとりくみとして表彰させていただいたところです。式典において私が表彰した松原市のとりくみの中核を担うスケートボードパークが無事に完成し、こうしてオープニングセレモニーの開催を迎えられたことは、私にとっても、非常に喜ばしいことです。これから、「スケボーパークまつばら」を核としたまちづくりが、どのように実現されていくのか、楽しみで仕方ありません。スケートボードの未来を担う人たちが、「スケボーパークまつばら」を大いに活用し、さらに飛躍することを願っております。

（「スケボーパークまつばら」オープニングセレモニー室伏スポーツ庁長官動画メッセージより一部抜粋）



Skateboard History

そもそもスケートボードって!?

スケートボードは1940年代、アメリカ西海岸が発祥といわれ、日本では1970年代中頃から広まったとされる。今は著名なスケートボーダーのさまざまなトリックを収めた映像や「X Games」といったエクストリームスポーツの大会を通じ、スケートボードを知る人がほとんどだろうが、初期の頃はサーフィンや音楽、映画、ファッションといったサブカルチャーをきっかけにスケートボードを知る人がほとんどだった。日本では1976年に創刊された雑誌「ポパイ」でスケートボードを知ったという人も多かった。

もともとは公園や空き地といった場所で滑る事が多かったが、1979年に東京・渋谷の東急文化会館の屋上に「カリフォルニア・スケートパーク」ができるなど、全国各地でスケート・パークが誕生し、ブームを後押しした。

一言で「ブーム」といっても上がったりがったりはあったよう。海外でのムーブメントが伝わり日本でも盛り上がりを見せるが海外でブームが落ち着くとつられるように日本でも人気下がるということも。しかし最近ではインターネット等の普及により情報の伝達が早くなった分、ブームの下降のターンが短くなり、人気や認知度はここ数年で大きく上がっているようだ。

カルチャーと密接に結びついているスポーツとあって「若者のスポーツ」というイメージが強かったのだが、1982年にはスケートボードを一般市民でも気軽に楽しめるスポーツとして定着させるための啓蒙活動やスケーターの安全対策、モラルの普及や向上といったさまざまな目的のもと「一般社団法人日本スケートボード協会」が誕生。全日本選手権をはじめとした各種の大会を行うようになった。そして2016年には2020年東京オリンピックの追加種目に正式決定。1年延期され2021年に行われた五輪では女子ストリート金メダルの西矢栞をはじめ、金3、銀1、銅1個のメダルを獲得した。

ここ数年の盛り上がりはこの五輪種目化といった競技の部分での選手たちの活躍が大きな要因ではあるのだが、競技はスケートボードの一面でしかない。なんといってもスケートボードの醍醐味はファッション、音楽、アートといったさまざまなカルチャーとの結びつき、そしてそこに伴う「自由さ」。スケートボードとは「スポーツ」という枠には捉われない「カルチャー」といえるのだろう。

【記事監修】取材協力：西川隆スケートボード日本代表監督



1940年代 アメリカ西海岸にて発祥

1970年代中頃 日本でも認知され始める

1976年 雑誌「ポパイ」創刊

1979年 東京・渋谷の東急文化会館「カリフォルニア・スケートパーク」誕生

1982年 「一般社団法人日本スケートボード協会」誕生

2016年 2020年東京オリンピックの追加種目に正式決定

2021年 2020年東京オリンピック開催

女子ストリート金メダルの西矢栞をはじめ、金3、銀1、銅1個のメダルを獲得

「笑顔で楽しく。」

[profile] 2007年8月30日生 大阪府松原市出身。TOKYO2020スケートボード女子ストリート、初代金メダリスト。また同時に13歳10カ月での金メダル獲得は、日本選手で史上最年少記録。6歳から兄の影響でスケートボードを始め、競技開始からわずか7年で世界トップクラスへの仲間入りを果たす。その後も、最後まで笑顔で楽しくをモットーに、X-GAMES・DEW TOURといった世界最高峰のコンテストで優勝を飾りつつ、ストリートでのパート映像撮影にも意欲を燃やすスケーター。



©yuichi sugita

なくてはならないもの、スケートボード。

スケートボーダーの西矢栞は今年の3月に松原市内の中学校を卒業し、4月からの新学期からは大阪市内の高校に通う高校1年生となった。2021年に行われた東京オリンピックで正式種目として採用されたスケートボード女子ストリートに当時13歳で初出場し、「13歳、真夏の大冒険」というフレーズと共に日本人最年少金メダリストとなってから早2年が経過したというのは、改めて時の流れの早さを感じざるを得ない。

またその翌年の夏には、世界のトップスケーターから10名程度しか招待されないコンテストであるXGAMES(エックスゲームズ)・DEW TOUR(デュー ツアー)で連続優勝を飾り、瞬く間に世界に西矢栞のスケートスタイルと共にその名を轟かせた。

10代半ばにして、世界トップスケーターの仲間入りを果たしたそんな彼女の1番の夢は、自分の乗っているスケートボードブランド「REAL」からシグネチャーモデルと呼ばれる自身のモデルを出すことである。

スケートボードの聖地であるアメリカでは、自身のシグネチャーモデルが世に出て初めて「プロスケーター」として認められる。

本人にスケートボードとは?と聞くと決まてこう答える。「なくてはならないもの。いつも楽しい気持ちにさせてくれるし、スケボーをしたから海外にも友達もたくさんできた」スケートボードひとつで世界を切り開いた彼女の笑顔の裏には、挑戦し続ける大事なマインドがあった。

そして、純粋にスケートボードを楽しむことの大切さを伝えるために、今日もまた笑顔でスケートボードに乗り続ける。(次号へ続く)



THE LATEST TOPICS

西矢栞選手がサンリオに所属
「スケボーの楽しさ伝えたい」

スケートボーダーの西矢栞が株式会社サンリオと所属契約を締結した。サンリオがスポーツ選手と所属企業としてのスポンサー契約を結ぶのは今回が初めて。今後、西矢はハローキティとサンリオのロゴステッカーつきのデッキを使用し、さまざまな大会やツアーに出場する。西矢は「サンリオと力を合わせて、スケートボードが楽しくてどれだけいいものなのかを伝えられたら」とコメントを寄せている。織田夢海も所属契約を交わした。

SLS CHAMPIONSHIP TOUR
日本初開催 日本選手が健闘

スケートボード世界最高峰の大会のひとつ「STREET LEAGUE SKATEBOARDING (SLS)」の第2戦目のチャンピオンシップツアーが8月12日に東京の有明アリーナで開催された。日本では初開催となるこの大会で日本人選手が大健闘。男子は堀米雄斗が優勝、池田大暉が準優勝。女子の準優勝は西矢栞だった。優勝はクロエ・コベルだった。7回目の優勝を飾った堀米は「良い滑りを見ることができてうれしかったです」とコメントした。

挑戦を応援する「Be Active.」
スケボーハウツー動画公開中

一歩踏み出す挑戦を応援する「Be Active.」コンテンツとしてスケートボードのハウツー動画が公開中。スケートボードの新国際イベント『UPRISING TOKYO Supported by Rakuten』の日本代表コーチの早川大輔氏、宮本美保氏らを講師に迎えて開催したスケートボードクリニックの様子を収録したもの。初心者向け、プロスケーターによるヒールフリップやバックサイドビッグスピンのテクニクなどさまざま。

特設ページ: <https://www.smd-am.co.jp/beactive/>

2023年11月11日(土)・12日(日)

すけぼーのまち まつばら

NEWSLETTER



南大阪最大級の地産地消フェアとして知られる「まつばらマルシェ2023」の期間中に、スケボーのまちまつばらプロジェクトがさまざまなイベントを実施致します！松原市の皆さんが楽しめるスケボーのまちならではのブースやイベント、大会が目白押しですのでぜひ楽しみにしてください！



11月11日(土)・12日(日)開催のスケボーイベント・体験会
最新情報&参加エントリーは、左記QRコードを読み取ってアクセス！

ジャムトリックセッション

一般参加のスケーターが自由に得意なトリック(技)を披露し、MCが会場を盛り上げる自由な雰囲気満載のスケボーイベント。デモンストレーションには、国内トップボーダーも参加し、圧巻のスケボーテクニックを披露します！まつばらマルシェ会場近くにある桜珈琲松原店横の特設会場で開催する予定です。参加希望者は上記のQRコードからエントリーをお願い致します。

スケボ一体験会

スケボーやった事ないけど興味ある！少しだけボードに乗ってみたい...と思っている方に向けて、スケボ一体験会を開催致します！老若男女問わず興味のある方は、ぜひこの機会にスケートボードに初乗りしてみてください。まつばらマルシェ会場近くにある桜珈琲松原店横の特設会場で開催する予定です。参加希望者は上記のQRコードからエントリーをお願い致します。



スケボー大会

次の金メダリストを目指す未来のトップスケーターたちが参加する松原市の新しいスケートボード大会。ビギナーからオープンまで、スケボーのレベル別に2クラスに分かれて、今年オープンしたおくさま印スケボーパークを会場に開催する予定です。参加希望者は上記のQRコードからエントリーをお願い致します。



スケボーのまちまつばらブース

まつばらマルシェ会場に、スケボーのまちまつばらブースを出展致します！ブースでは松原市出身のアーティスト、Dream Ayaさんがデザインしたスケボーのまちまつばらグッズ販売を予定しています。ここでしか手に入らない激レアグッズをゲットしましょう！



「おくさま印スケボーパーク」

12のセクションで初心者から上級者までが楽しめる

「おくさま印スケボーパーク」は今年4月1日に大阪府松原市の県道2号と県道31号の交差するあたりの場所にできた屋内外スケボーパークで「スケボーのまち まつばら」を代表する施設の一つだ。

広々としたフラットスペースと7つのセクションを設置した屋外パークと、5つのセクションを設置し、雨天でも滑走可能な全天候型の屋内パークの2つからなる。

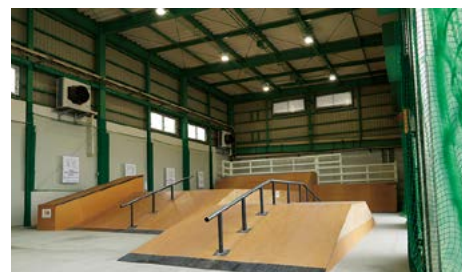
屋外は「スラッピー」「バンクバンク／H600」といった比較的難度の低いセクションで構成されており、初心者がスケートボードに慣れ親しみ、基礎を身に着けるには最適な場所。パークでは「スケートボードスクール」を開講しているのだが、初心者向けのクラスはここで開催される。

屋内は「複合ステージセクション／ダウン

レール・ダウンレッジ」「クォーターランプ・バンク／H1500」といった難易度が高めのセクションが用意され、こちらは中上級者向け。パークを管理するミズノスポーツサービス株式会社の太 健二さんによると屋内パーク「オーリー」というトリックを使えるようになるかが一つの目安となっているとのこと。

前述の「スケートボードスクール」は5歳～中学生が対象で初心者向けの「エントリークラス」と「ビギナークラス」、中級者向けの「Aクラス～」が用意されていて月3回・年36回の開催。未経験ではあるがスケボーをやってみたいという大人については「無料体験会」と「初心者講習会」というイベントがおススメだ。また屋外には「まだまだみんななど滑るのは恥ずかしい」という本当の初心者のために、こっそり練習できる「こそ練ゾーン」なるものも用意されている。

太さんはスケートボードの魅力として「他の競技と比べて人と人との間の壁がない



「空間を共有しながら滑るため、みんな非常に上手にコミュニケーションを取っている」「主体性」といった点を挙げたうえで、青少年の育成といった観点からは「コミュニケーション能力の向上」「礼節」「譲り合いの精神」といった内面における人間的成長への好影響を挙げた。



「おくさま印スケボーパーク」

【所在地】大阪府松原市立部4丁目270-1 【営業時間】9～23時 【休館日】12月29日～1月3日

【TEL】072-335-6338 【URL】<https://shisetsu.mizuno.jp/m-7288>



スケボーのまちまつばらHEADLINEは、松原市内エリアにて無料で発行しているフリーペーパーです。
【今後の発行予定：2023年12月・2024年3月】
発行：スケボーのまちまつばら推進協議会 / 編集・制作：株式会社ヘッドライン
問い合わせ先：info@tokyohheadline.com

写真：Dream Aya